

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「安全保障関連3文書について」

支部会員 中尾 剛久

昨年12月16日、国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画の「安全保障関連3文書」が国家安全保障会議と閣議で決定された。国家安全保障戦略は2013年から9年ぶり、国家防衛戦略は防衛計画の大綱から衣替えし、前大綱(30大綱)から4年ぶりの改定となる。防衛力整備計画も前身である中期防衛力整備計画(31中期防)が5年間の計画だったものから10年間でスコープに入れる長期計画に衣替えされている。

昨年2月に生じたロシアによるウクライナ侵略は国際秩序の根幹を揺るがす事態であり、全世界の国々の安全保障政策に激震を与えることとなった。我が国も同様で、今回の安保3文書は、まさにこれまでの安全保障政策の大転換を示すものになった。本稿では、それぞれの文書について、つまみ食い的ではあるが思うところを述べてみたい。

国家安全保障戦略

国家安全保障戦略は、9年ぶりの改定であり、この間の我が国を取り巻く戦略環境の劇的な変化を取り込んだものとなっている。特に2016年に当時の安倍首相が提唱した「自由で開かれたインド太平洋戦略」を踏襲し、インド太平洋地域にフォーカスした記述をする点も、周辺諸国である中国、北朝鮮及びロシアに関しては、当然ながら更に厳しい認識にシフトしている。今回の改定の特徴として挙げられるのは、安全保障に関わる総合的な

国力の要素として、第1に外交力、第2に防衛力、第3に経済力、第4に技術力、第5に情報力との整理が行われていることである。これにより、我が国として安全保障上の目標達成のために重要と認識する要素とその整備の方向性がより鮮明になった。

外交に関する記述では、日米同盟の強化は当然としても、FOIP(Free and Open Indo-Pacific)の敷衍や日米豪印(クアッド)の枠組強化を念頭に同志国との連携の強化やODAとは別に同志国の軍等が裨益者となる新たな協力枠組みの創設について述べられている。中国、北朝鮮、ロシアという我が国とは基本的な考え方を異にする国に囲まれ、ロシアがウクライナを侵略したこと、帝国主義時代を彷彿させる形態の戦争が起りうる世界になった現在、これらの施策を強力に推進し、我が国にとってより有利な戦略環境を構築するための努力は最優先事項であろう。

開発途上国等に対する国際協力の根幹である開発協力大綱(旧ODA大綱)は、対象となる事業はこれまで非軍事部門に限られており、軍事利用又は軍が関係しそうな事業は慎重に回避されてきた経緯がある。例えば、軍民が共用する施設の整備や軍事利用の可能性のある装備品等の供与事業については認められてこなかったのである。ODAとは別の枠組みになるにせよ、裨益国の軍に対する直接支援を実施するようになれば、軍の対処能力の向上だけではなく、我が国と同志国の国家間及び自

衛隊と各軍間の関係深化・連携強化が相当程度期待できる。まさにウインウインの外交ツールになり得ると考える。予算の規模もあって、当面はノンリソースな軍民両用のアイテムの提供などが行われると思うが、いずれは防衛省が主管すると思われる防衛装備移転とともに、国家安全保障会議のコントロールの下、我が国と同志国の関係を強化し、有利な安全保障環境を構築していくための手段として、車の両輪のごとく活用されるべきと考える。

防衛に関する記述においては、ロシアのウクライナ侵略のインパクトが大きいと思うが、反撃能力の保有・整備が国家安全保障戦略に明記されたことはエポックである。これまでその必要性についての声は上がっていたものの、現実の政策として実現することは困難だったものの一つが反撃力の保有であった。今回、それが我が国の安全保障のために必要な機能であるということのアナウンスする意義は意外に大きいと考えている。対外的には、戦略環境に応じて日本も安全保障政策をdrasticに変更するのだという実例を示すこととなった。これは周辺諸国に対し、一定の抑止効果をもたらすものであると考えている。一方、対内的(国内的)には、今回の改定には間に合わなかったものの保有を検討すべき機能や変更すべき制度や方針について、今後これらを議論し政策化に向けての準備を行う上での前例ができたという意味合いも大きいと考えてたい。

防衛生産・技術基盤に関しては「防

衛力そのもの」との位置づけで、その強化は必要不可欠との認識が示された。その一環としての防衛装備移転も官民一体で進め、各種支援策を講じることとされている。2013年版国家安全保障戦略の記述が翌年の装備移転三原則の閣議決定に結実したように、今回の記述に則して三原則運用指針の改定等の議論に拍車がかかることを期待したい。ただ、これは相当な難題でもある。いかに民間企業の支援策を講じても、それだけで企業の参入意欲が上がるわけではない。一般的に、防衛産業を担ってきた各企業は、縮小する一方であった防衛生産に対して意欲を低下させてきている。さらに海外への防衛装備移転事業への参入となれば、「武器商人」とのレッテル貼りなどに象徴される reputation riskへの警戒感が強いのが現状である。加えて、防衛装備移転には民間企業では解決できない政府間交渉(G to GやM to M)やオフセットなどの課題を伴うのが通例である。したがって、まず防衛装備移転自体のマイナスイメージを払拭する政府主導のキャンペーンの実施が何よりも優先されると考える。その上で、政府による対象国政府との協議を前提に、官民一体というよりも、当面は官主導で進める必要があるだろう。複数の成功案件を目に見える形で提示できなければ企業は参入の意思を示さないだろうと考える。

国家防衛戦略

今回の国家防衛戦略の策定は、防衛計画の大綱からの名称変更という

以上にインパクトのある政策転換が表明されていると考える。

最初の防衛計画の大綱である51大綱は、「基盤的防衛力構想」が基本的な構想になっており、これが以後継承されてきた。07大綱時は基本的にこの構想が引き継がれ、次の16大綱においては、基盤的防衛力構想を引き継ぎつつも、対処能力をより重視した「多機能で弾力的な実効性のある防衛力」の構築が謳われた。次の22大綱では、基盤的防衛力構想からは脱却し、「動的防衛力」を目指す方針となった。ただ、これは十分なリソースを得られない前提で、対処能力を向上させるという構想であり、実質は基盤的防衛力構想の焼き直しに過ぎなかったのではないかと思う。続く25大綱では「統合機動防衛力」を、30大綱では「多次元統合防衛力」を標榜しているが、これも基本路線としては22大綱からの流れの延長線上にある。

今回の04防衛戦略が画期的だと思ふ所以は、「多次元統合防衛力を抜本的に強化」と従来の構想の延長線上にあるような表現をしつつも、「今後の防衛力については、相手の能力と戦い方に着目して、我が国を防衛する能力をこれまで以上に抜本的に強化する」としている点である。要するに、基盤的防衛力構想の軛から完全に脱却し、脅威対処型の防衛力整備にシフトすることを宣言しているのと解せられるからである。もちろん、そのための予算措置の担保が同時になされなければ絵に描いた餅にしかならないが、防衛戦略として本来の姿を提示できるようになったことは重要な転換ではないだろうか。

1月25日に防衛省で開催された「防衛大臣と防衛関連企業（主要15社）との意見交換会（第2回）」において、素案の提示が行われたとの報道があった。これによれば、従来8%としてきた利益率（実質は2%）3%になるという。）について、最大15%を可能にする制度変更を行うというものとすることである。実に素早い動きであり、防衛省の改革に対する意気込みが伝わってくる。企業側の努力も求めつつ利益率全体を底上げする方策として評価に値すると思われる。ただし、この利益水準が適正かどうかについては一考の余地があると思う。例えば、本防衛戦略でも防衛技術基盤の強化が強調されているが、これを担うのは防衛装備庁の各装備研究所と防衛産業の各企業の持つ研究開発部門が主力となる。現状としては、防衛産業の各研究開発部門に頼る面が大きいと思われるが、技術基盤を維持し、不断に技術開発を続けるには相当程度の投資が必要になる。

「第44回神奈川自衛隊音楽まつり2023」湘南支部協賛会員の皆様へ
入場整理券の配分について
「第44回神奈川自衛隊音楽まつり2023」がコロナ禍の影響で3年振りに来る3月5日（日）1445〜1700神奈川県民ホールで開催されることとなりました。これも偏に諸団体等の協賛のお陰であり、当湘南支部は会員70名に及ぶ多数の方々のご協賛により音楽まつりのプログラムの中に、2ページ半にわたる「令和5年 祝 御入隊・御入校」のタイトルで入隊、入校予定者へのお祝い、激励の広告を出すことができました。ご協力に感謝申し上げます。

これに関し神奈川自衛隊音楽まつり実行委員会から協賛諸団体等に対し入場整理券が送られ、湘南支部については協賛者数の6割分の42枚です。枚数が少ないため配分に苦慮致しましたが、数年前の配分内容等を勘案し今回は主として、比較的支部入会時期が新しい特別会員及び正会員の方々を対象に2枚ずつ配分することと致しましたのでご理解下さい。

以上ご説明致しましたが、ご賢察の程よろしくお願い申し上げます。

湘南支部長 清崎忠園

駿河国 久能山東照宮
支部理事役 深澤 文晴
静岡県静岡市駿河区根古屋に鎮座する神社（別格官幣社）であり、江戸幕府を創始した徳川家康が元和2年（1616年）に死去、遺命によりこの地に埋葬されている事としても知られる。

駿河湾に面した久能山の南側斜面に設けられた1159段の石段を登った上に神社がある。

元和3年（1617年）第二代將軍徳川秀忠によって久能山東照社が創建された。正保2年（1645年）朝廷から東照社に宮号が宣下され、「久能山東照宮」となる。

国宝

- 久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿
- 太刀 銘真恒

国指定重要文化財

- 「久能山東照宮」13棟
- 伊予札黒糸威胴丸具足
- 金溜塗具足
- 白檀塗具足
- 革柄蠟色鞘刀
- 太刀
- 脇指

徳川家康関係資料一括



石段からの景色



拝殿の逆さ葵



久能山東照宮
奉
深澤文晴
令和五年二月五日

「支部の予定」

- 02/25 (土) 藤沢地区 入隊・入校激励会
- 03/05 (日) 第44回神奈川自衛隊音楽まつり
- 03/11 (土) 第11回支部理事役会
- 03/22 (水) 3月隊友紙発送

編集後記

2月6日にトルコで発生した大地震の死者が4万5000人を超えました。ご冥福をお祈りします。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。